



一年間、ありがとうございました

本日、令和三年度の修了式が行われ、一年間が終わりました。とはいえ、3月31日までは在籍上は現学年です。春休みも充実させてほしいです。

新型コロナ感染症に振り回された一年間でしたが、本校は休校や学級閉鎖もなく、大規模校に比べて大きな支障はありませんでした。感染者が出たら安全第一で学級閉鎖の上、クラス全員のPCR検査を行う新山梨方式でした。安全面は良いのですが、授業実施については非常に厳しく、普段からびりびりしたものがありました。

大過なく児童が元気に過ごせたのは保護者の皆様の健康管理のおかげだと感謝しております。本当にありがとうございました。

一年間を振り返って、学校行事ではほうとう煮会や6年生に贈る会等が開催できなかつたり、保護者の皆様の参加差し止めや制限といった交流の場が減ったことが実に残念でした。また、陸上記録会や演劇音楽鑑賞会、親善音楽会といった市内小中学校行事も中止に追い込まれて、子どもたちの成長にもかなり心配が出てきている状況です。

附属小では、大学との連携によるミニミニ大学やプログラミング学習、芸術家教授二人による陶芸指導など、学校の特異性を生かして子どもたちの楽しみも膨らめながら対応してきました。外部講師による音楽指導など、他の小中学校では実施できない指導も安全面を最優先にすり抜けるように教育を守ってきました。玄関での通年の検温、体調チェックもその一面です。

恵まれた自然の中で、コロナ禍を「やさしく、かしこく、たくましく」過ごしてきた附属っ子たちには、どのような状況であっても前向きに生きるための試練であるともとらえています。

現状が続くことも予測されますが、引き続き学校教育へのご理解・ご協力をお願いいたします。

卒業式を無事実施

3月18日(金)、令和三年度卒業式を執り行いました。無事に6年生8名が巣立ってきました。寒い中でしたが体育館の窓を開け、コロナ対策をしながら実施しました。

参加者は卒業生、在校生代表4・5年生、来賓、教職員、保護者各家庭2名の総勢50名程でした。

卒業生は表情を引き締め、心を込めて卒業証書を受け取りました。学校長の式辞では、困難な時代であり、その中をしっかりと生きていくためには緩まぬ心で春休みを過ごすことが大切であることを伝えました。

卒業生は在校生や保護者、教職員に旅立ちの決意を呼びかけ、在校生はお世話になった事への謝辞を全校の代表として対面で呼びかけました。

コロナ対策で1時間ちょうどの短縮した卒業式としましたが、心がこもる素敵で引き締まった旅立ちの日となりました。



六年生に贈る会

3月1日（火）に6年生に贈る会を実施しました。コロナ禍以前は保護者のみなさんや地域のみなさんをお招きして、楽しく盛大に六年生を送り出すイベントでしたが、本年度はお招きするどころか、活発な活動が伴う劇や歌のようなものも含まれていたので、全校児童が一堂に会することすらできませんでした。

形式としては体育館に卒業生。在校生はズームというオンラインの会議システムを使い、各教室で各学年の出し物等を見るといった変則です。自学年の出番になると体育館に移動して六年生の前で演じる形です。学校職員がスカイプ動画放送用のタブレットで撮影し、六年生は生で、他の学年はディスプレイで鑑賞しました。また、オンラインの不具合の際にこの企画がダメになってしまうことも考えられたため、ビデオ撮影職員も配置して、記録をとり続けました。

六年生は楽しそうに笑い、思いに浸る場面もあり、在校生の声が止まると励ましながら、楽しいひとときを過ごしてくれたと感じました。また、参加できなかった保護者のみなさんには卒業式の終了後に撮影しておいたビデオを見ていただきました。コロナに負けず、無事に六年生との楽しい時間を過ごせたように思いました。新しい取り組みで子どもたちにもまた、新しい楽しみ方を伝えられたとも感じました。

